

不動尊利生並淺草觀音古之繪圖全

特44  
997

017263-000-6

特44-997

不動尊利生並淺草觀音古之繪圖

金子 愛藏 / 著

M26.12

ABE-0643





編者 先年祐上人の著筆をよみ入れり  
 依て是を推刻し付ふ不動寺の住者より祈  
 念を依頼し、刻を同法衣公と既  
 ち推刻河東へ托す。 然るに不思議なる推  
 刻河の縁は、撰り海子親世音古代の陸園  
 を發見し、みまほまのころとて、こころを全  
 て不動寺の授師にゆゑる者として、表題へ  
 不動寺及祐上人の像を加へ、發行せしむるに  
 せり。聊の趣旨を述べて、序を付す。

明治廿六年十一月

編者 ありん



推古天皇二十六年三月  
 十八日梅原宿禰成敗  
 と稱するを早稲入宮  
 戸川の陣、綱を引  
 けり時綱は御を  
 一、即ち正教正者の  
 係無しして人  
 とす。百七十四年  
 前の事あり。



影 御







雷神

長七尺

横手先ヨリ  
手先ヨリ  
六尺六寸

基寸法  
前同

高七尺五寸



風神

長七尺三寸

横手先ヨリ  
手先ヨリ  
七尺六寸

高七尺六寸

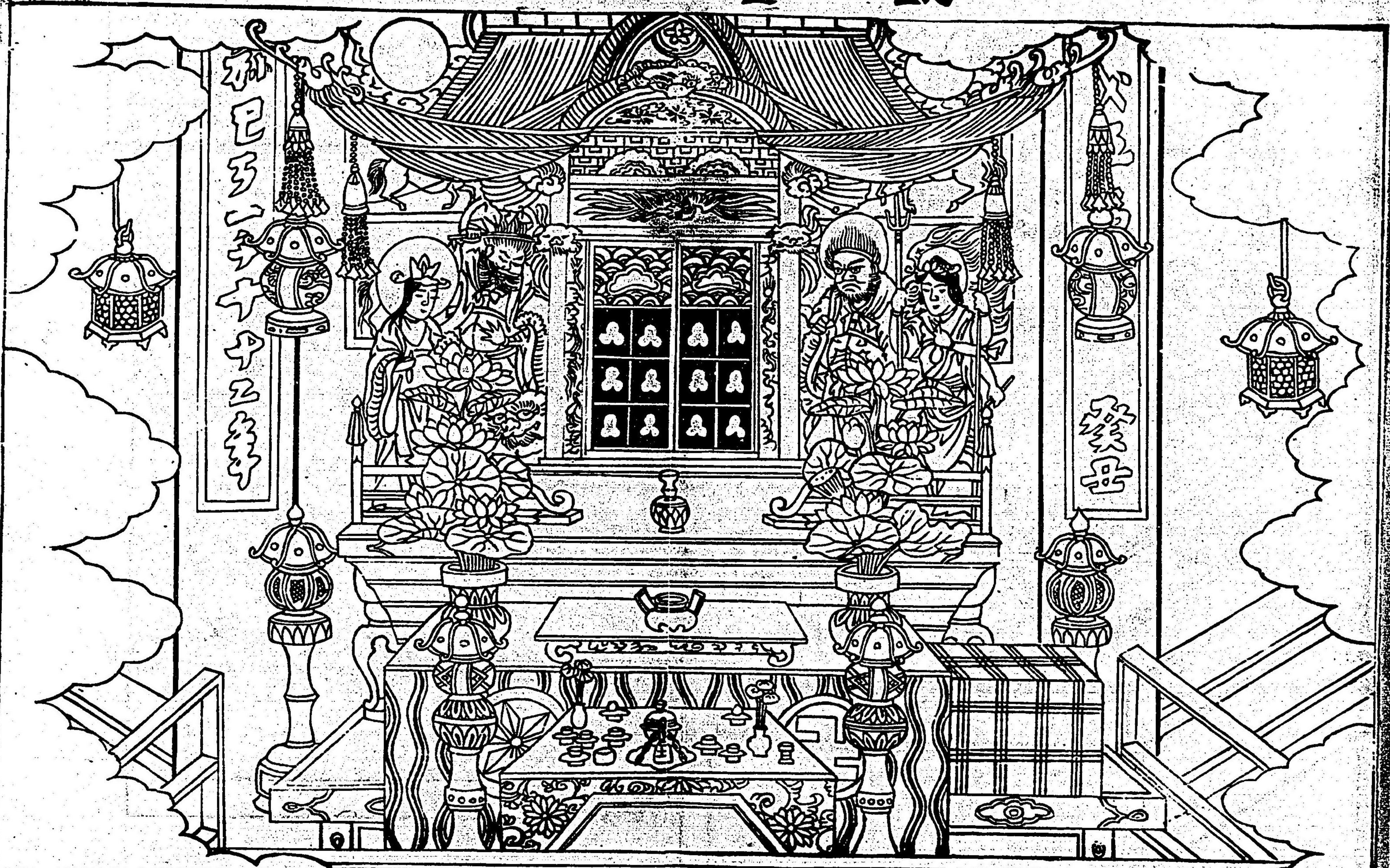
寸七尺四寸

寸七尺四寸

寸七尺四寸

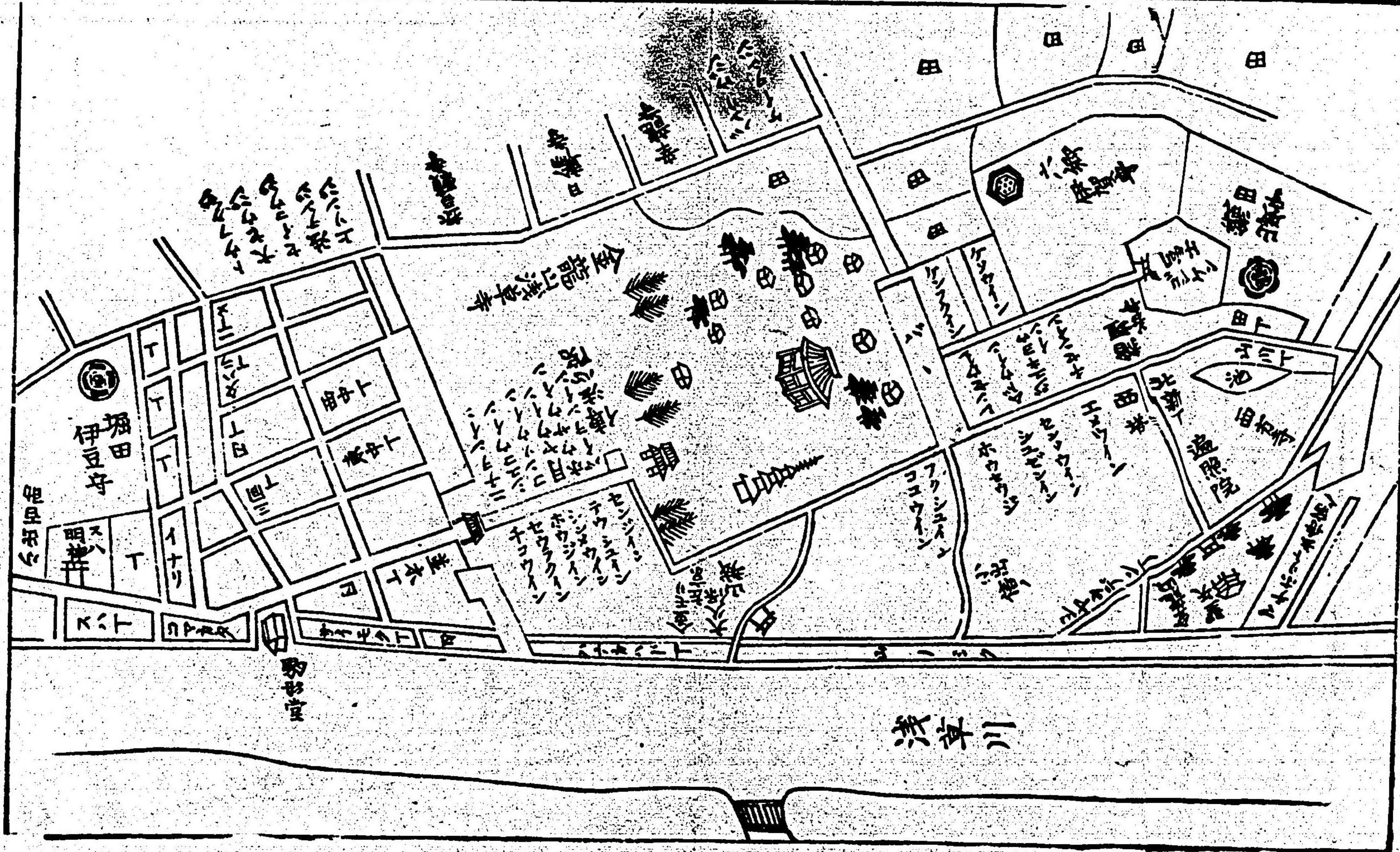


觀世音宮殿之圖



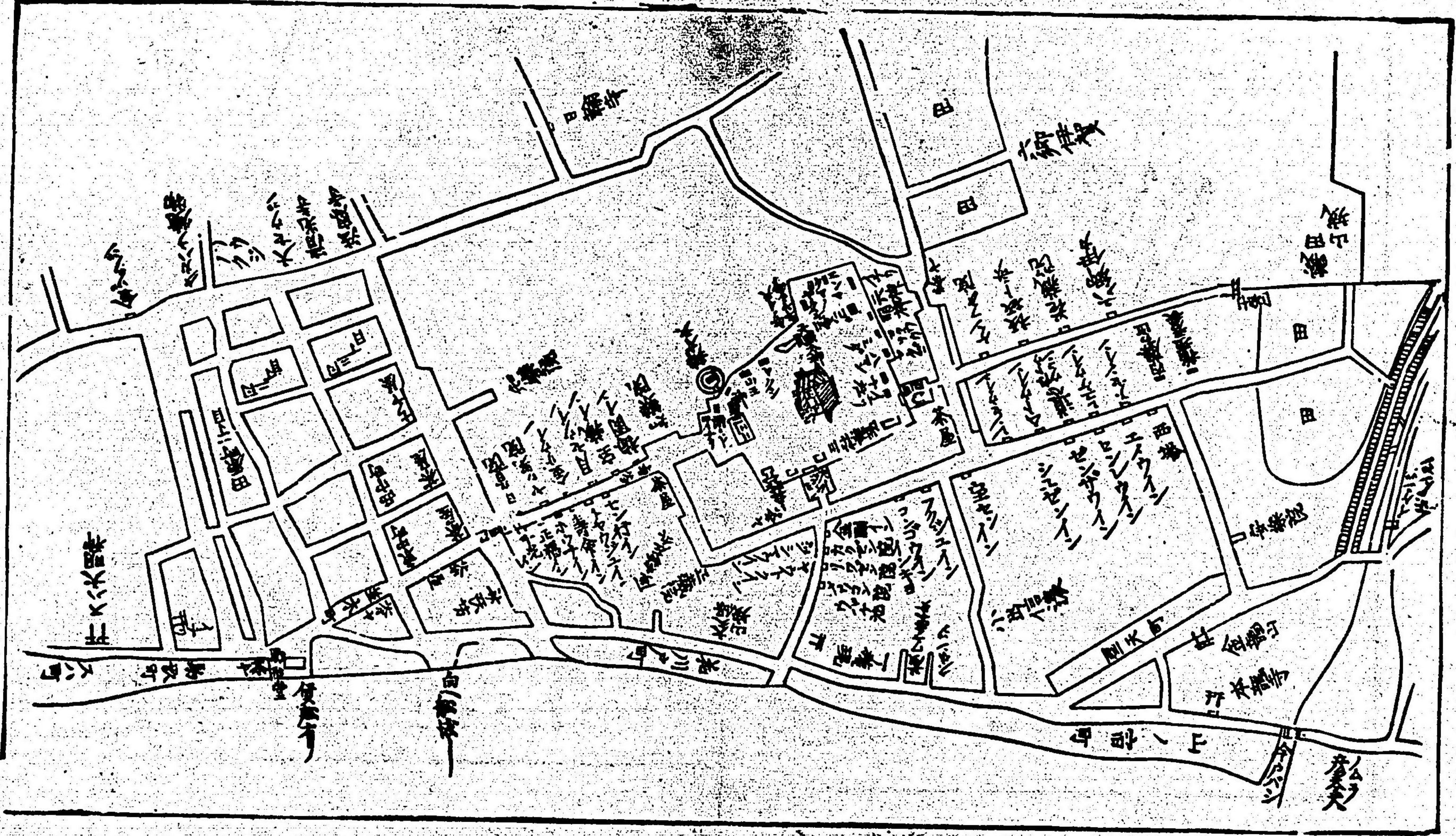


江戸砂子よ  
 云く當る親  
 音聲像を人  
 王三十四代  
 推古天皇の  
 所宇遣中臣  
 と云つる人  
 あやまれの  
 事ありて此  
 所は老辻せ  
 らる其後村  
 熊渡成武成  
 と云ふ三人  
 の兄弟三人  
 の跡を慕ひ  
 来りて中臣  
 み仕入漢と云  
 みみたる推  
 古帝三十二年  
 戊子三月十日  
 三人の兄弟官  
 戸川の沖に御  
 をおろしそ汁  
 も観音の仙体  
 を得依り三人  
 かく草を獲  
 けの仙を安里



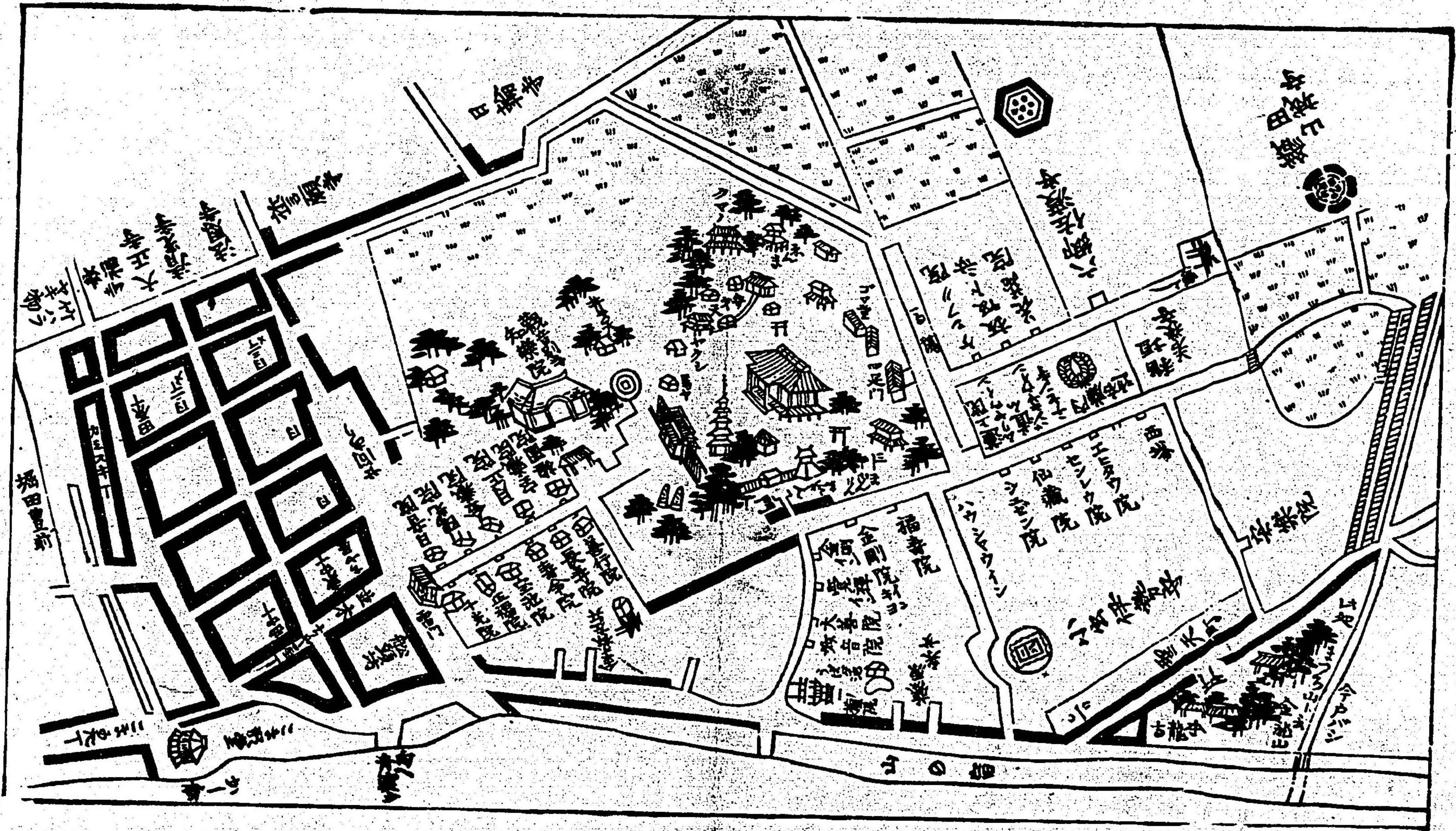


後奈良院の御  
 宇原の義輝武  
 將の時北条家  
 再興一忠善  
 上人を以て別  
 當とあり候



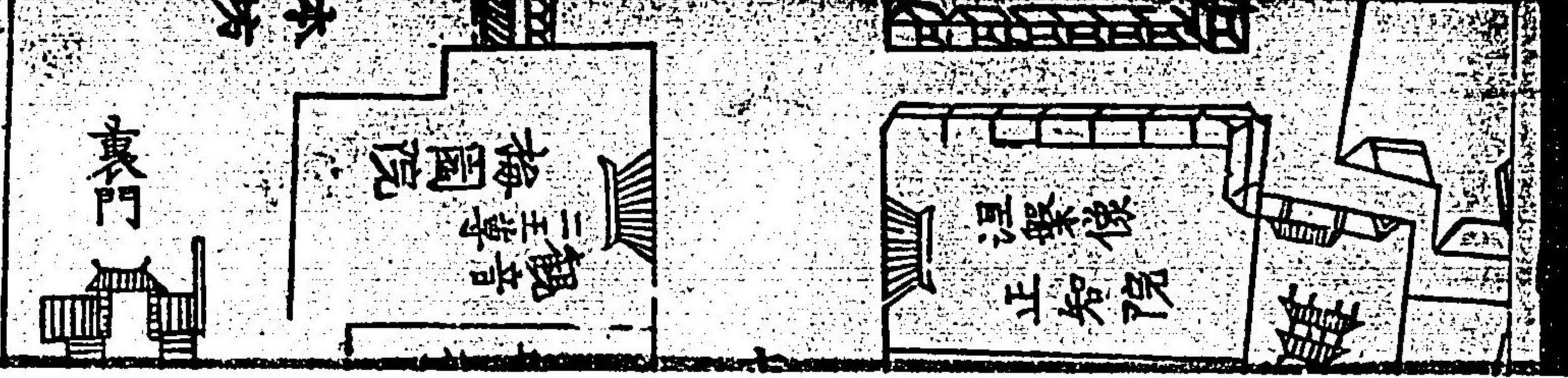
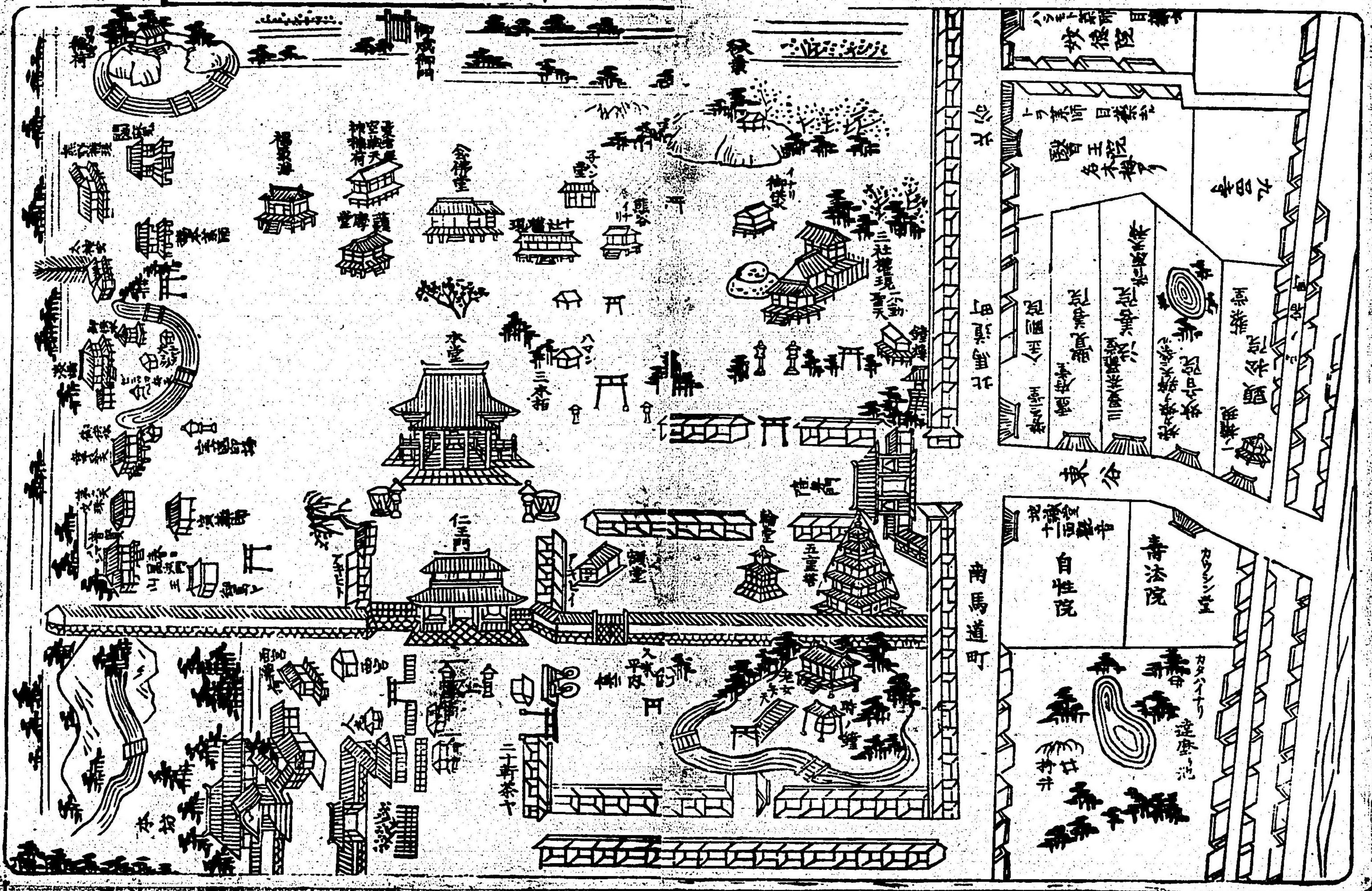


朱雀院の所宇  
 天慶五年安  
 房守平公雅  
 の観音を祈  
 り所願満了し  
 給ひよら  
 て観音堂を  
 再興一又念  
 仏堂及び五重  
 の塔を建て玉  
 ふ

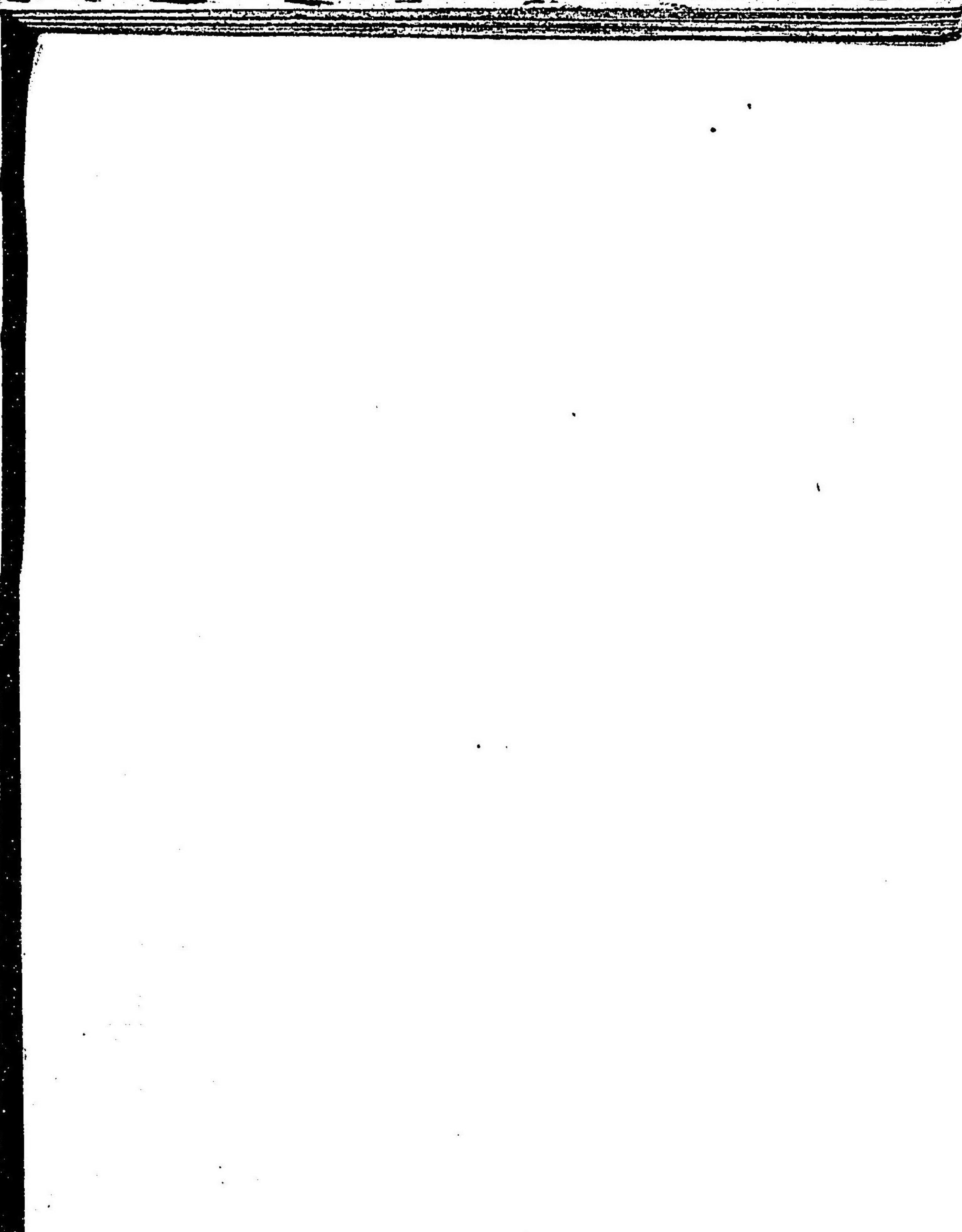
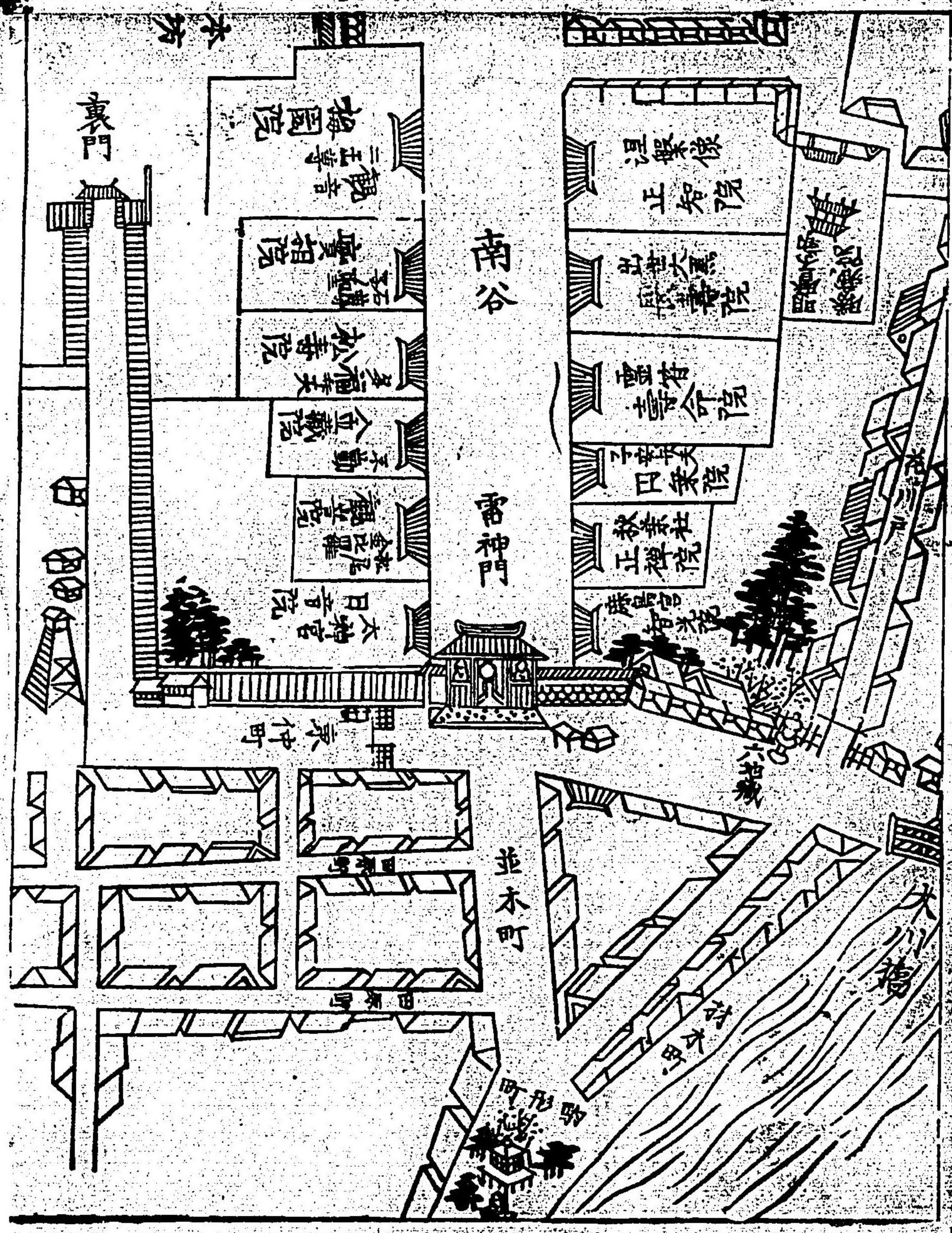
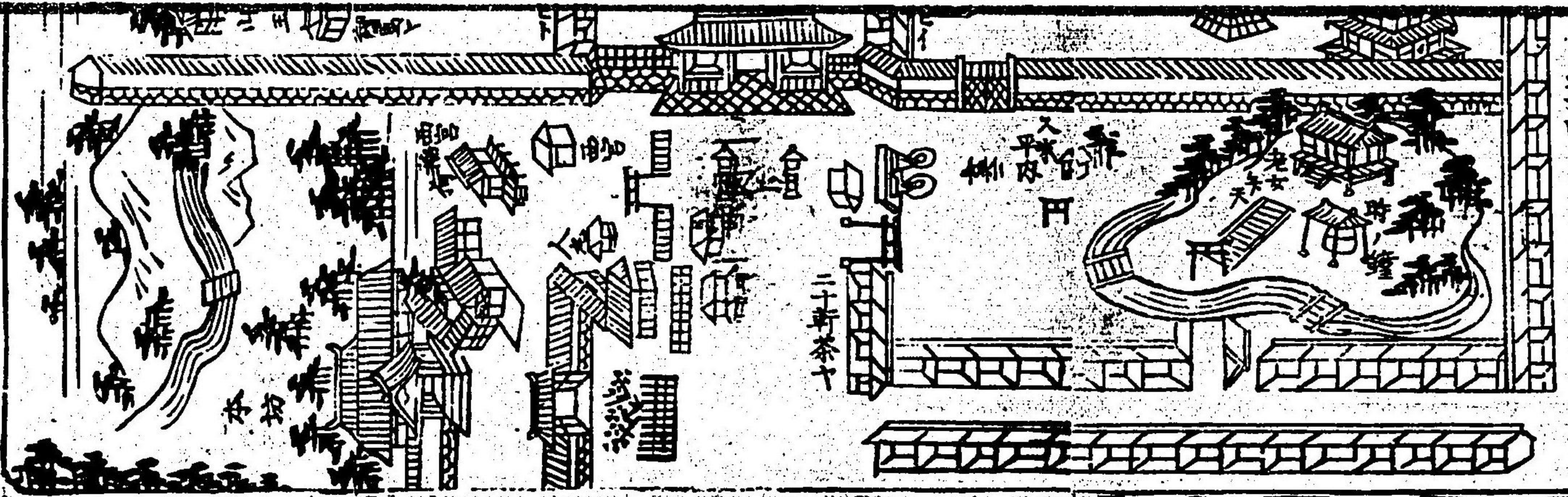
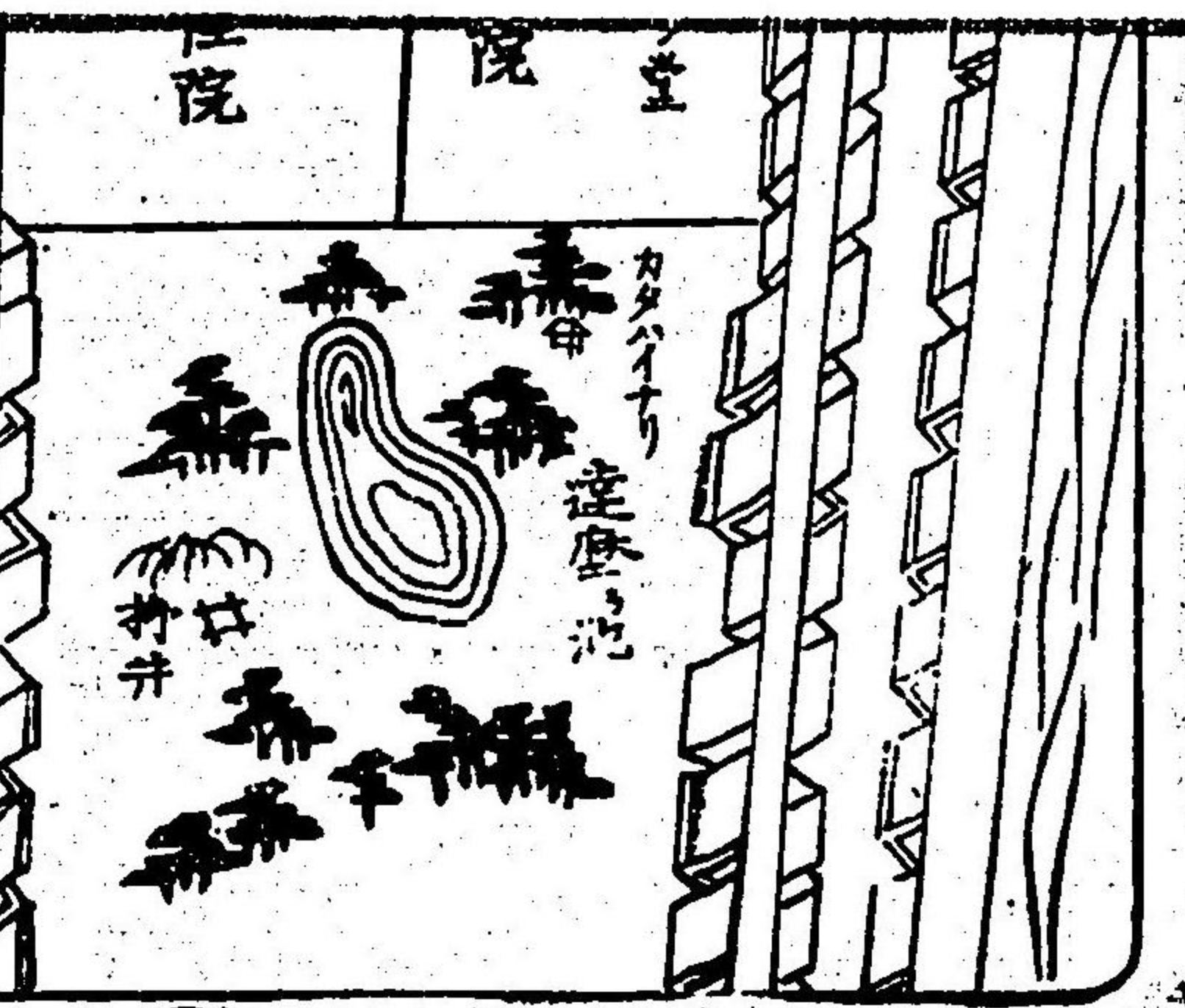




権現様申入  
 國々天正十  
 八年八月の上  
 旬よりまよ  
 り金龍山浅  
 草寺を以て  
 所祈念所と  
 仰せたまひ









浅草寺觀世音由来

源義朝寄附觀世音像一尊、所首に宝冠を刻み臺座の蓮華の  
裏を以て籠を為さきたるやうに見ゆ至下細長き像ありと云  
葉のつもとよ義曆三年十二月四日浅草回祿の時觀世音飛  
出させ玉ひて前の樓にうつらせ給ふ事有近衛院の時时在馬  
頭義朝者の樓の本を以て觀音の像を造り立玉ふ今の内陣は  
ハ臺座は鎌田兵衛正清奉行是を書附たりと云ふ齊藤氏の  
武藏名所同會は坂東順礼記は康治年中義朝當時觀音ハ詣  
とあり又花川戸六地藏の石燈籠の銘は久安二年丙寅と有て  
鎌田兵衛の建立ありといひ依て察するは康治より久安  
までわづらひ五年留されたりと云ふ政清命を受けて普  
濟の事をつかさどり一に建立せる成べし  
明治廿六年十二月

明治二十六年十二月二日印刷  
同 年十二月六日發行

版權所有

定價金三錢

著作發行  
兼印刷者

金子愛藏

東京市浅草區  
阿部川町八十九番地



